



湖
潜
草
歌
集
尾
秋





俳諧十家歌題集秋之部

○ 目錄

七月	立秋	今秋	来秋	初秋	初嵐
柳菘	一葉	桐一葉	栲待	星月夜	文月
齊六日	七夕	牽牛 ^二	星別	星伎	星忌
立琴	星迎	星合	二星	星友 ^三	秋七草
天河	鶯	鶯の糸	梶の糸 ^四	防鴨渡	七夕鞠
迎鐘	盆市	盆會	魂迎	魂糸	魂棚 ^五
相經	墓糸	生糸魂	刺鯖	鯖切	大文字
送り火	高燒籠	焼籠 ^六	はと入	踊 ^七	角力

月見	十六夜	有明	駒迎	葡萄	芙蓉
廿六			廿七		
秋夕	待宵	八月	八月	初月	秋夕
廿六		廿九	廿九	廿九	廿九
菜虫	蝉	蚕	旭吹	花火	秋夕
廿六			廿七	廿七	廿七
稲木	籾磨	新米	増吟	とん月	玉ひり
廿五					
蓮實	藕葛	稲の花	稲葉	早稲	西几
廿四				廿五	
桔枝	相撲草	虎の牙	虎の毛	虎の爪	西几
廿三					
瓢	青瓢	萩	萩	芭蕉	蘭
廿二					
夕入	木槿	花木槿	草花	女郎花	朝魚
廿一					
露	露	露	雨冷	指高	秋風
廿					

秋目ノ

木犀	菅花	野菊	秋海棠	菊頭	系菊頭
廿			廿九		
金剛草	蕨花	極草	芋	系人形	種茄子
廿					
むら	砂取	たろこ	燈籠	鬼灯	燈籠
廿		廿七			
鷗	鴨	初丁	尾	鶴	鶴
廿					
山雀	鶯	鶯	小鳥	小鳥	四十雀
廿					
江魁	鮎	鮎	いと	いと	沙魚
廿					
秋子	秋水	初汐	慕風	秋山	門田
廿			廿三		
毛見	稲刈	稲刈	落種	唐黍	子ほ
廿					
鳴子	案山子	引板	落さ	麻	九月
廿三					

重陽^五 十日菊 殘菊 牛糸 升印 後の月^六
 十二枚 二枚月 菊^七 小菊 菊作 菊畑
 承和菊^主 五葉菊 五葉^辛 梅五葉 菊
 菊餘^主 银杏 菊蔓 柿 小練掃 小
 月柿 樞 柚 梨子 推 木^五
 毬 南爪 南天 菊舞 梅噪 乳母州
 裏枯 芦種 我木香 草^三 打草 板草
 草種 茵 松皮 秋豆腐 新酒 秋空
 九月^五 幸七 長衣 秋書^五 秋^六 行秋
 俳諧十家類題集秋之部目錄終

俳諧十家類題集秋之部

○七月

八千坊 輯校

立秋 年の宵ふと初菊の山や州の花 麦林
 けいこきやや州のやまこゝろのささき
 菊さつや秋のささきの洞のやま
 さなはつふのやまの秋のささき 来山
 菊さつややけいこきやまのささき
 けいこきやまのささきやけいこき
 立秋や白髪もささきのささき

秋を山や竹も騒ぐ陰陽の
蕪村

今朝秋
浅雪の足吹消してささの木の
麦林

来秋
ふるまへーし返るるまきりと旅の宿
蕪村

来秋
ふるまへーし返るるまきりと旅の宿
蕪村

初嵐
信田宿にまきり
ふるまへーし返るるまきりと旅の宿
来山

初嵐
ゆるゆる中余風のたふさる宿の
蕪村

沽徳

柳交
柳さるるまきり個ふまきり
蕪村

一
まきの道より一まきの柳
其角

一
まきの柳一まきの柳
其角

桐
まきの柳一まきの柳
其角

折侍
まきの柳一まきの柳
其角

星月夜
まきの柳一まきの柳
其角

文月
まきの柳一まきの柳
其角

文月
七夕
草半

又月やと白の帯のあつらひを
 まよふと白の帯の中の上
 せうのやねをさうとついで
 狂むの本れふ神も厭へる
 柳機へしけしひやの帯を
 まよふとやうとついで
 くらりとも牛帯星のいそれ
 まよふとやうとついで
 まよふとやうとついで
 まよふとやうとついで
 まよふとやうとついで

芭蕉
 来山
 其角
 嵐雪

秋

草使
草使
草使
草使
草使

私をまよはしけしけし
 まよふとやうとついで
 まよふとやうとついで
 まよふとやうとついで
 まよふとやうとついで
 まよふとやうとついで
 まよふとやうとついで
 まよふとやうとついで
 まよふとやうとついで
 まよふとやうとついで
 まよふとやうとついで
 まよふとやうとついで

麦林
 嵐雪
 希因
 其角
 来山
 其角
 其角

ふりしるやしらばりきりきり
其角

早合や女のよきとて千のいじ
其角

ほし合や時又なる高灯籠
其角

早合より我妹いそん結女亭
嵐雪

あし合や髪女もねるしけり
其角

ふりしるやしらばりきり
其角

二星眼に隣り娘年十一又
其角

あか栞やねむるさう後の星
其角

妻あそよりいふ一らせり
其角

あそりしるやしらばりきり
其角

素堂

秋之

星夜

二星

そのあのおのきりしるやしらばり
来山

あそりしるやしらばり
其角

雲海や作はらばりしるやしらばり
芭蕉

天の川きりしるやしらばり
其角

折雲うきしるやしらばり
其角

ちせいのあそりしるやしらばり
其角

峰梢うきしるやしらばり
其角

我やまぬしるやしらばり
嵐雪

あそりしるやしらばり
其角

上野よりしるやしらばり
其角

秋七種

天河

来山

其角

芭蕉

其角

其角

其角

嵐雪

其角

其角

其角

龍

龍の糸
握の糸

まゝおのちふらむらりてはら
らふれぬ楫の糸もあつて
谷の中麻の糸もあつて天也川
かゝるふやふやがけしはるも
指の糸もあつてはるもあつて
うゝまの糸もあつてはるもあつて
龍の糸もあつてはるもあつて
うゝまの糸もあつてはるもあつて
まゝおのちふらむらりてはら
握の糸もあつてはるもあつて

嵐雪
麦林
其角
希因
来山
麦林
蕪村

秋四

防
竹
後

七夕鞠
迎
盆
盆
盆
魂
魂
祭

まゝおのちふらむらりてはら
らふれぬ楫の糸もあつて
谷の中麻の糸もあつて天也川
かゝるふやふやがけしはるも
指の糸もあつてはるもあつて
うゝまの糸もあつてはるもあつて
龍の糸もあつてはるもあつて
うゝまの糸もあつてはるもあつて
まゝおのちふらむらりてはら
握の糸もあつてはるもあつて

嵐雪
其角
其角
嵐雪
其角
芭蕉
其角
嵐雪

鬼子山 母屋のま戸のまを何
 待ハ 来る隙をさしおれむより
 申ひおる他人の心もや鬼子
 外のみりぬもさすてまを
 来山
 蕪村
 嵐雪

秋五

霊木の葉よきを山いのかうま
 付けや神を魂柳 蕪 来山
 蕪村
 其角
 柳 柳行や此曉のしりのれ
 其角
 墓 墓糸 糸のなつこいおひつ
 芭蕉
 其角
 生身魂 生身魂のうらぬ祝に
 其角
 例 咽り溝 柳のえや生身魂

刺鯖
鯖切

大文字

送り火

送り火

燈籠

刺鯖を度る小羽をこころしく

其角

鯖切のかくもるきり大板を

山のうらを雪うもえもや大文字

嵐雪

相阿弥のきり麻をこやし大文字

蕪村

大文字やしりさのさるはかぬ

送り火中定家のさつり十文字

其角

径とせ火のさつり中夜風の

嵐雪

人鬼を清くこころの灯籠う排

言水

高松茶滅うんせとらりさる

蕪村

馬をぬ燈籠俵の道しりか

其角

秋六

おそろくろきねまこ門の灯籠こる

嵐雪

美女と美男灯籠よてしほま

其角

西例の燈籠さるもや三日の月

りる人もはり燈籠ふわりり

燈籠とこころいりさるぬまうり

蕪村

雷をよもいね俵のけしと入

言水

はや入やまも人よいら柏まぬけ

蕪村

おしりよの係さる浪中いしお

沾徳

おしりさる浪中いしお

言水

おしりさる浪中いしお

言水

踊

はこ入

踊子成るころころ入りしき山 其角
 一 ちかか 産をふう〜とふ〜る
 おしりてきてあめのち希に海をうり
 小娘のせいさつたき〜〜うめおしり
 ちかかちか〜〜と〜と〜と〜と
 信成の鬼えきひさふおしり
 見え〜ちをうり〜〜と〜と〜と〜と
 ちかかよ歌さし〜と〜と〜と〜と
 ちかか〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 ひ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

其角

米山

麦林

来山

蕪村

新七

角力

藤の徳り合を〜と〜と〜と 那
 昔や〜〜と〜と〜と〜と 芭蕉
 はおのそと土山梅を角力取 沾徳
 上よる〜と〜と〜と〜と お撲え 其角
 ト〜と〜と〜と〜と〜と 過角力
 ちかか〜と〜と〜と〜と〜と 角力
 ちかか〜と〜と〜と〜と〜と 角力
 ちかか〜と〜と〜と〜と〜と 角力
 ちかか〜と〜と〜と〜と〜と 角力
 ちかか〜と〜と〜と〜と〜と 角力

芭蕉

沾徳

其角

角力

角力

角力

角力

角力

来山

露

肩すししに角カと森物いこく舟
 夕を露中し休えの角カちちし
 花入の力まじし中しと角カいり
 目し中しとて露りるよとてし
 とてししししししししししし
 ふらふりのまじしししししし
 露りるししししししししし
 露りのちちししししししし
 舟ししししししししししし
 舟院りししししししししし

燕村
 言水
 素堂
 其角

秋八

平務

肩すししに角カと森物いこく舟
 夕を露中し休えの角カちちし
 花入の力まじし中しと角カいり
 目し中しとて露りるよとてし
 とてししししししししししし
 ふらふりのまじしししししし
 露りるししししししししし
 露りのちちししししししし
 舟ししししししししししし
 舟院りししししししししし

嵐雪
 来山
 其角
 燕村
 来山

霧雨

朝霧やさるも不之春もさる
朝霧よさるのえまやつれき
もくぬのいんさるさる
朝霧よ一のちるなや浪のさ
霧の煙り未のけを浪のさ
朝霧やさる飛を不におるし
霧もやさるのさるは海は
朝霧や抗子さる丁くさる
朝霧や村千朝の市のあさ
霧よよ衣通帳の素魚さん

言水
素堂
其角
蕪村
素堂
秋九

雨冷
稲妻

雨冷よぬ織やありの義たるん
いなつや雨のさるい位のさ
雨のさるいさまをたさるい
稲ほくも目付はるを田の那
いなつや朝暇さるさるふ
稲妻やさるのさるさるは
いなつやさるのさるさるを
稲つや山も雨さるさるは
いなつやの稲よさるさるの弱
稲妻さるのさるさるのさる

其角
芭蕉
沾徳
其角
希因
蕪村

秋風

編書やし空の海りの音のこゝろ 蕪村

いよつとりの一細くはせの海 希因

お梅ややれの下はよの風 来山

おもむくは秋風やうらの山 其角

物の備のこゝろはらんかゝり 嵐雪

いよつとせや秋の風は 希因

いよつとせや秋の風は 来山

いよつとせや秋の風は 希因

いよつとせや秋の風は 来山

いよつとせや秋の風は 其角

いよつとせや秋の風は 嵐雪

いよつとせや秋の風は 希因

いよつとせや秋の風は 来山

投細の種をたよきてあそびせ
麦林

けさうちや干魚をさる浪底
蕪村

金屋の器をたつらさの、あ
、

あそびせや酒肆にたつらさ
、

妹の風書きもたつらさ
、

あそびせや釣の糸あそびせ
、

あそびせや音吹の糸あそび利
其角

あそびせや亡業の掃を固く踏
蕪村

あそびせや櫻川のともをさそびた
、

木槿 みぎはのト 花の乃木槿をさるふ吟をさる
芭蕉

朝白の落ふあそびの木槿をさ
蕪村

通人のまをたつらして娘を木槿を
其角

晩鐘を作向てたつらさ木槿
麦林

あそびせや綴綴をさるらむむむ
言水

あそびせくおのくあそびも極む
芭蕉

七科の酸味あそびのたつらさ
言水

あそびせくあそびのあそびせ
麦林

あそびせくあそびをさるらむむむ
芭蕉

あそびせくあそび折て女帝をさ
言水

あそびせくあそびをさるらむむむ
、

女帝卷

草卷

花木槿

木槿

身入

翔
魚

僧心よ轉りかつて女希ふ
片降くもけり入中なるまじし
牛ふまゝに娘は落しぬれ女希ふ
雨風の申よまじきりおるまじし
夜のもう折るもくおるまじし
女希ふもまじきりおるまじし
ころれてもせくおるまじし
朝の霞やまじきりおるまじし
去年の暮よまじきりおるまじし
まの朝もまじきりおるまじし

其角

来山

蕪村

希因

芭蕉

素堂

秋
十二

朝の霞やまじきりおるまじし
片降くもけり入中なるまじし
牛ふまゝに娘は落しぬれ女希ふ
雨風の申よまじきりおるまじし
夜のもう折るもくおるまじし
女希ふもまじきりおるまじし
ころれてもせくおるまじし
朝の霞やまじきりおるまじし
去年の暮よまじきりおるまじし
まの朝もまじきりおるまじし

沾徳

其角

希因

青瓢

并のより舟由つひささこま

其角

瓢

夢よみなるや舟舟まてりつる瓢のな

希因

らさくはふさるさくしるや雲帳の

其角

潮の月のまぶるや口をこはらひな

嵐雪

船舟中竹のあらはる日暮るまで

麦林

毎日の花朝のころぬの棚

来山

らさくは平むしる冷やうさの運

蕪村

船の舟中一輪はふさ刺りのころ

希因

ねつるやまねのころむしる雲帳のな

希因

萩

山萩の添井もさるしあふさつら

言水

蒼きももさるしあふさつら萩のユキ

其角

萩の萩の胸ふさるさつら萩のユキ

希因

そらりるさ萩の添井もさるしあふ

希因

澄きささるさ萩の添井もさるしあふ

嵐雪

ももさるさ萩の添井もさるしあふ

来山

小萩の竹もさるさつら小萩のユキ

蕪村

萩のしとねもさつら萩の添井もさるし

芭蕉

萩のしとねもさつら萩の添井もさるし

来山

らさくはさるさ芭蕉の添井もさるし

其角

萩

芭蕉

風うきて妻よちせ成に寝もせり 言水

卯こまやか人もをこの産屋に 素堂

ちりふまへ菊小はくちもとせ成に 其角

色と成なる 花も角をかうらり 其角

茶の香やし 縁のおもろし 芭蕉

笠さくろく 茶やしを食の表の下 嵐雪

おの茶も香ふいりてやえ向し 蕪村

そよ夕振りさきし 寺桶と燈も

とらうらもえゆる茶をり持仏堂

道油し 角力とりて茶の入り家 芭蕉

秋占

蘭

桔梗

角力草

西金百室

唐の山

うらりしと也 見ればそよふて金百室の 其角

まらんともしらんとをのそをうらりし 芭蕉

唐のうらりし 茶もふまをて茶もそよふ 来山

花はうらりしと角もそよふと唐のうらりし

儀しと花もそよふと唐のうらりし 蕪村

餉よかきと唐のうらりし 其角

唐の相を流る唐のうらりし 其角

西の山をうらりし 唐のうらりし 素堂

茶もそよふと西の山をうらりし 其角

西の山をうらりし 唐のうらりし 其角

籾虫	鈴虫	福虫	今宮の虫	来山
この虫はけき瓜の葉より出づる	この虫はやまの葉より出づる	この虫はけき瓜の葉より出づる	この虫はけき瓜の葉より出づる	この虫はけき瓜の葉より出づる
素堂	素堂	素堂	素堂	素堂

蠶	葉虫	蜂	蚕	素堂
この虫はけき瓜の葉より出づる	この虫はけき瓜の葉より出づる	この虫はけき瓜の葉より出づる	この虫はけき瓜の葉より出づる	この虫はけき瓜の葉より出づる
素堂	素堂	素堂	素堂	素堂

花火
鬼吹

ふりれと縁鬼よわらうまきりし 嵐雪
 帯籠や寝たりかよとらりて 其角
 赤や川や味留〜 体せ茶
 清月や世をさそとらるるはくは
 身をさぬゆひうやれらるまじりて 来山
 法はうもまきそい嘘ふく男これ 言水
 扇酌花火ととらる 扈從うね 其角
 ともぬうともひらもさるたえらる
 小屋とくしとよ火の音の刻るる
 物とるにも運糧もやるや花火とる

秋意
秋夕
秋夜

ふりせよ波のふ葉の夕月夜 蕪村
 をれ燗て花やう〜まきりか〜ぬ
 妹ととれ〜その不徒もま〜りて
 赤野もやまやう〜り娘の夕〜ぬ 嵐雪
 いらふのたさよ〜し〜る〜う〜ぬ 芭蕉
 る戸越分妹の姿や灯のねひ 来山
 身のらふや〜とを自とあ〜入〜る〜さ 蕪村
 子胤のち〜い〜と〜等〜や〜ら〜る〜の秋
 甲知るるのさのひら 睦やおまの秋
 松よら〜ら〜れ〜お〜さ〜る〜は〜か〜う〜ぬ

○八月

八朔

ハ朔や踊こぼるをかしこちの家

麦林

初月

ハ朔や海鳴りよるこ日月

蕪村

初月

初月のすまはる雁のこゑ

言水

新月

そよや空をしらむ言の初月

素堂

新月

新月やいらをむくの男山

其角

新月

新月のふもくを標角

嵐雪

三ヶ月

新月や内付西の株の竹

芭蕉

三ヶ月

三ヶ月の名をよもぬと三ヶ月

芭蕉

三日月や朝鳥の夕は不むしん

三日月よこつるらんをたのむる川

素堂

流すの株三日月いづるを素堂

言水

中秋の雲いもをたのむる月

其角

情捨やしるしを川をたのむる月

其角

海しとの門よ入るるこ日月の月

其角

待宵

待宵やのりたるこ日月をたのむる月

其角

すのきやをたのむるこ日月の月

其角

月

一と葉もたのむるこ日月の月

其角

二階のつらやをたのむるこ日月の月

其角

月の名は行枝さくさく街身 佑徳
 江を流して庭を奈ふ月の清あたる 素堂
 此さしき月よりおとや帰るらん
 とと婦らる青のふ見り破の月 嵐雪
 家くに月の中言ふるり 音 来山
 森奈川と又さる月や去の橋
 中川の月枝さくさくさくさく
 佳くもさくさく向ふらん月の言 芭蕉
 又さる歌やさくさくさくさくさくさく
 妹も早さくさくさくさくさくさくさく 月之祝

秋十九

我若くは四角な歌を空の月
 さくさく行枝さくさく月の上さ里
 月を中へ指さるるを拵るらん
 鳴りしれも風は破生ぬ月あたる 来山
 鳴りしれも牛のまさと娘の月 嵐雪
 さくさく行枝さくさくさくさくさく 素堂
 月九ならわれれれれれれれれれれ
 洪さくさく行枝さくさくさくさく 月
 むさくの本乃むさくさくさくさく 我
 さくさく月の上さくさくさくさく 月

神よほさるゝをたふ衣月哉ッ 素堂

月つり柙らり秋家本つらうり
我をほさるゝ我影つら月お影

蕪村

月えんまゝしき野を過りたり
中しくお独りらまをさそ月とを

山のまや海をいそぬる月も今
行月や澄行りまをさ月とを

沾徳

をそ居るゝをたふぬまのねの月
海を流るゝ能く舟のまをさ

秋二下

水原よ月よとて入るゝは世はし

後程し桐のを下ととくしり月

其角

月のほつらつたのまのつらあつら

そ家らり冬年行るゝ月もつら

庵丁の片袖くしし月のまを

月よらりぬほつらあつらつら

まをつらつらつらつらつらつら

ちれ月よらりつらつらつらつら

ふそつらつらつらつらつらつら

月よらりつらつらつらつらつら

雲のありなき思ふより月あるま 其角
 池ももたふふきき音 乃つこき
 小使よ起てて月をこえさうき
 こころのちねを清さん娘の思
 猿遠より我らうんちけの月
 つぬきあふさうの鹿もふさの月
 入月や花を巻を巻くかきあぬ
 ちく夜より火の甘やとれ月あま
 夢うもて猿の遠き 山登の月
 月を流も流路の小者木角の下女

新世一

月令書

名月

月と森人さうふと小瓶のせりしん	来山
位のはやおま屋さうて浦の月	其角
庭の月を減さうて草花より	蕪村
月をさきかきさうして片	希因
庭のや香も庭まはさのそく	言水
月さうひさの音舞いおてよ	蕪村
月さう音舞いしん入屋さうりあぬ	沾徳
さうひの月小舞いぬきさうんさし	来山
あのみよさうひさの音月さう	芭蕉
名月やし池をさうておまさう	芭蕉

名月やいづる山もまても 遊田のよし 芭蕉
 名月やしるふまゝくし 乱鳥のほし
 名月のさかひのまゝくし 浮舟の
 名月やあつちのまゝくし 蓮のく
 名月のちかひのまゝくし 夕
 名月やいづる山もまても 遊田のよし
 名月やしるふまゝくし 乱鳥のほし
 名月のさかひのまゝくし 浮舟の
 名月やあつちのまゝくし 蓮のく
 名月のちかひのまゝくし 夕

秋世之

名月やいづる山もまても 遊田のよし
 名月やしるふまゝくし 乱鳥のほし
 名月のさかひのまゝくし 浮舟の
 名月やあつちのまゝくし 蓮のく
 名月のちかひのまゝくし 夕
 名月やいづる山もまても 遊田のよし
 名月やしるふまゝくし 乱鳥のほし
 名月のさかひのまゝくし 浮舟の
 名月やあつちのまゝくし 蓮のく
 名月のちかひのまゝくし 夕
 名月やいづる山もまても 遊田のよし
 名月やしるふまゝくし 乱鳥のほし
 名月のさかひのまゝくし 浮舟の
 名月やあつちのまゝくし 蓮のく
 名月のちかひのまゝくし 夕

嵐雪

名月やさきくふはる鶯の声
 名月や石の名のかりうら
 名月や柳の枝をさくく
 名月やうらまじりあゆみ
 名月の燈もふくぬ指う那
 名月中かえりて高きと願
 名月中かえりて高きと願
 名月や風をくくくく
 名月やあまの人のあまの茶を

蕪村
 希因
 秋廿三

名月や人あつて秋の月 嵐雪
 名月やまもえく大根島 来山
 名月や舟の山風目の墨く
 名月や折合ふ秋の月 麦林
 名月やあまの虎溪の菊ひき
 名月や今も秋魚くく折
 名月や舟泉流の魚 蕪村
 名月やあまの秋の月
 名月やあまの秋の月
 今月

希因

懐吟のよきれはくやうの月 希因
 夕照のよきれはくやうの月 沾徳
 さうして鞠壇のよきれはくやうの月 言水
 とぞよきれはくやうの月 希因
 おりてくやうの月 太希月
 月をよきれはくやうの月
 夕照のよきれはくやうの月 其角
 中一はくやうの月
 朝のよきれはくやうの月
 鳥帽のよきれはくやうの月

秋田

本冊寺りくやうの月 希因
 夕照のよきれはくやうの月
 不こり入白をよきれはくやうの月
 弱とよきれはくやうの月
 酒をよきれはくやうの月
 川筋のよきれはくやうの月
 狗尾のよきれはくやうの月
 十ふくやうの月
 いちふくやうの月
 土鼻をよきれはくやうの月

嵐雪

秋の月 寒くも 涼しくも 月
きりぎりすの 光の 影の 月
仕合の 廻りの 光の 影の 月
青い空の 光の 影の 月
海も 光の 影の 月
熊も 光の 影の 月
この 月 光の 影の 月
きりぎりすの 光の 影の 月
海 光の 影の 月
るまふ 光の 影の 月

嵐雪

来山

秋 廿五

月見

秋の月 寒くも 涼しくも 月
きりぎりすの 光の 影の 月
仕合の 廻りの 光の 影の 月
青い空の 光の 影の 月
海も 光の 影の 月
熊も 光の 影の 月
この 月 光の 影の 月
きりぎりすの 光の 影の 月
海 光の 影の 月
るまふ 光の 影の 月

麦林

蕪村

芭蕉

素堂

佑徳

言水

ころるん丸をさきて月えらる
 ぶらさるるさきつーの月え舟
 人さきやし月えさし月え舟
 娘さき丸本さしらさ月え舟
 雷さき梅さきさき月え舟
 津さきゆゆお刺さきさき月え舟
 鱈さき画さきさき月え舟
 さきさき月えらる人さきさきさき
 鏡さきさきさきさき月え舟
 月とさき海さきさきさき
 其角
 嵐
 来山

十六夜

隻の鼻をさきさきさき月え舟
 け月やさきさきさきさき
 さき人の月やさきさきさき
 月えさきさきさきさき
 さきさきさきさきさき
 十さきさきさきさき
 さきさきさきさきさき
 十さきさきさきさき
 さきさきさきさきさき
 其角

船一舟のこよひをさるこころは
 十たきやあまふくまひんを思
 いさひやわねのふらふら
 有明や二斗とみ推の柄より
 けりぬや待おるふらふら
 有明の月よりさるこころは
 眺えやる函谷やしらけり
 約さるふらふら
 約さるふらふら
 早登約やしらけり

来山
 麦林
 沾徳
 其角
 蕪村
 其角

秋山

霜菊
 月日の粟嵐ふらふら
 そらふらふら
 茶をとりてさるの掃除や
 さるせいのふらふら
 木犀やしらけり
 体も場をさるふらふら
 するふらふら
 けりぬや不ふらふら
 ふらの娘やふらふら
 さるふらふら

沾徳
 其角
 嵐雪
 其角
 希因
 嵐雪
 来山

薄

望接又風の機織るまねくま
 麦林
 三ヶ月をまきとんでおれ薄く那
 素堂
 いそのこゝに竹編り結ぶ薄く
 其角
 ちりよんもやもう武蔵の薄く
 素堂
 白くろの尾髪吹かるとくろく
 其角
 深寺を余ふおぼろ薄く
 希因
 岩屋中の薄くさくろ薄く
 嵐雪
 まよ〜〜いんふな〜〜いんふな
 来山
 山いられて跡まきまき皆めとくねる
 蕪村

林洲八

花薄
尾末

薄くは花やなうり人出や〜り
 嵐雪
 石川、二重の体中花と〜り
 素堂
 り〜りや少許お通、花薄
 素堂
 花と〜り降まはきま〜りさ〜り
 嵐雪
 松風のまきおれ〜り尾ま〜りな
 希因
 石〜り〜り〜り〜り〜り〜り
 其角
 鳥せ〜りむくのちりま〜りま〜り
 其角
 角〜りま〜りおせの空胸の花と〜り
 其角
 岩の〜り外風ま〜り〜り〜り
 其角
 冬す〜りま〜り社〜り〜り
 来山

藍

ちりす糸のふもくもく平登留

嵐雪

葛の葉

葛の葉ふけふいとまうと根もくも

其角

葉の根れを葛の葉のりり表

嵐雪

葛の葉のりりくく白くありあり

蕪村

葛の花

赤く葉て余りそらうへ葛の花

沾徳

野 兼

冬も冬ぬ小竹花吹雪もく外

素堂

なすりうへ冬も冬ぬ小竹花吹雪

蕪村

重箱り花むれ時り時きくも

其角

秋海棠

秋海棠西風のいろも冬も冬ぬ

芭蕉

冬も冬ぬ秋海棠のいろも冬も冬ぬ

麦林

秋 廿九

鶏 頭

鶏頭やちんちん並ひの清茶寺

其角

鶏頭を並ひのきりきりきり

嵐雪

味争て煮て煮て煮て煮て煮て煮て

蕪村

鉄木を吹くくくくくくくくくくく

蕪村

かきかきかきかきかきかきかきかき

嵐雪

葉鶏頭

根をりりかきかきかきかきかき

言水

金剛草

碧油汲小屋の隈やきりきりきり

其角

花もりし佐竹もりもりもりもりもり

蕪村

蹴ををりり隣りもりもりもりもり

蕪村

三径の十歩もあてもりもりもりもり

蕪村

穂 夢

甲斐の山やふとこのよ成陸車

蕪村

芋

芋の〜凡僧都の二百貫

其角

葉人参

朝露のまや〜引らんきふ〜

蕪村

種茄子

〜ひるまひ北平〜を結ぶ〜

蕪村

わうふ

〜このまよふ余〜

蕪村

綿取

〜ゆるゆる〜

其角

烟草

〜こころ〜山田の畔の夕日哉

蕪村

〜あつ〜

蕪村

秋三什

烟草花

〜は〜

鬼灯

鬼灯や〜

芭蕉

砧

〜

芭蕉

〜

其角

〜

希世

〜

蕪村

〜

蕪村

〜

希因

〜

希因

鶉

うさくふさふさうさくふさくふさく
 小海ねるちうくすす。な。ね
 拘の本りしうけく帯ね坪の内
 多れ目をとく中しきぬかきき
 そのあうれ煙積とる 鶉くう那
 ぶらけりり あらとをさるううが
 佐勢弱い任せぬ 振目う那
 まのつらさを 沸いせううう
 鴨を川で ねえとをくくうう
 沸いさううれ 鴨うりいさうう

蕪村
 芭蕉
 沾徳
 希因
 其角
 麦林
 蕪村
 言水

一秋世九九

鴨

ろうりてまきう 鴨うりいさうう
 泥を 鴨うりいさうう
 まいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう

其角
 沾徳
 麦林
 来山
 芭蕉
 言水
 其角

初雁

雁

ろうりてまきう 鴨うりいさうう
 泥を 鴨うりいさうう
 まいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう
 舟うり中ねり 舟うりいさうう

其角
 沾徳
 麦林
 来山
 芭蕉
 言水
 其角

鶺鴒

品川七車ふるきほにし丁の寺
陣中の飛掃もさうや丁の寺
沿道より行くもふねの原に
大経を賜へえ給ふもさう
丁の板を運ぶもさうや
鳥畑をさうや白たの
坂やいさくさうや
紀の路もも下りてさうや
一行の丁や路山は月を

其角
嵐雪
麦林
其村
芭蕉

秋四十

稻負鳥

まきつよふといふあふせきとさうや

其角

鶉

小百姓給をさうや

其村

加鳥

かきさうや

其角

燕

燕の寺の報さうや

其村

鶺鴒

さうや

其村

小鳥

こさうや

其角

四十雀

四十雀の中山さうや

其角

山雀

山の雀さうや

其角

山雀

山雀の物さうや

其角

鷓鴣

山雀や 樵のを本よ海ふととも
竹葉もささくささく 身し

燕村

鷓鴣

岸雪

岸雪

さひ鮎

ふるも鮎さひきりなる山里を

河鹿

舞大なる河鹿や波の下むせし

芭蕉

初鮎

かゝる夕暮人々様の手を流

其角

江鮎

鮎の付着を豆腐のふかふか

素堂

鱸

流因縁て志々の夕日中 鮎

其角

鱸

さち月こゝる毎日の夕日中 鮎

其角

石日の鮎ゆきて鮎の村

其角

鮎

赤權り 鮎もささく 鮎のま

其角

い

鮎よ 鮎の巨口を吐

燕村

い

ささく 鮎の口を吐

其角

い

小鮎の口を吐

其角

秋

ささく 鮎の口を吐

其角

秋

ささく 鮎の口を吐

其角

秋

ささく 鮎の口を吐

其角

秋

ささく 鮎の口を吐

其角

初

ささく 鮎の口を吐

其角

幕風
野分

八九月風やうこのそよの貝 嵐雪
 穂落ふありあけの如き 芭蕉
 日投きくひくさくさく明かぬ 言水
 暁の空 願ふ二の幕風 うね
 夕の月も枕をなほと申す 麦林
 けしきとてささふ 来山
 ちりりとくみふ 蕪村
 月かたを築つて 蕪村
 林下より我々の麦友を 蕪村
 市人のよき色 同く 蕪村

秋山
門田
毛見
稲川
稲久
落穂
唐黍
蕎麦花

空の二階下で来る 柳のま
 りとて 稲もゆるぎぬ 其角
 稲一穂 門田より 涼む 月満つれ 沾徳
 毛見の風の海へ下せよ 上川 蕪村
 いほくさ 稲を平に 水や 大井川 其角
 稲くち 穀を握る 葉の 中
 庭の卵を 握る 葉の 中
 おら 穂拾ひ 日らるる 中 其角
 唐黍や 水に けしきの 芭蕉
 うらやま 花に けしきの 其角

ねろくやまゝ海をたるとるよのよ
 官階舟一菰文科のこしこ
 道のくやまゝうらなはせしはせ
 豆谷の隣を白くきりまのま
 ぬま平海にいらくまゝは乃ま
 藤の日のくまゝし條るまはのま
 なるこくおのりる海をたるとるぬ
 けやうとる麻もつるまゝ人つるま
 七十の撫をまゝしとつるま
 する安二日の月もちりくま
 素堂
 蕪村
 其角
 麦林
 言水

秋四十三

鳴子

案山子
 麻のま中かどしの麻もぬれとて
 物を海より地を海に流してしうぬ
 新今ま強まると麻の麻山子か
 まる月舟ま新ぬのかしハ新止
 船風の舟くしと新事まる舟
 姓らあらにらまら号をかどしうぬ
 まるまらと海程まらとくしうぬ
 と海まらとく色ぬまらと案山子
 新ゆまら洗にせらか
 山屋中位吸まらと川板の音
 麦林
 未山
 蕪村
 希因
 蕪村

引板

落し水

村へけ後らふぬ屋

蕉村

麻

ふとの山所り麻

其角

小糸女やふらふて仰く麻の屋

いさしの秋くさむるまゝ麻の屋

秋くさむる後の肉像そ麻の屋

雪の山をささぐと麻の屋

さほくさやふらふて麻の屋

ふらふて麻の屋

麻の屋をふらふて麻の屋

麦林

まの山をささぐと麻の屋

秋田

身ふらふて麻の屋

希因

松の山をささぐと麻の屋

まの山をささぐと麻の屋

二人麻の屋

蕉村

麻の屋

まの山をささぐと麻の屋

折の山をささぐと麻の屋

麻の屋

ふの麻の屋

まの山をささぐと麻の屋

栗留のさくらやうすし麻のきり
麻のきり
蕪村

○九月

重陽

ほろ入の節のつももさきさきけ
栗留の角菊さきけかきふささきさき
おん志のよささるんせさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさきさき
清てしと秋の経ひと栗留のつゆ
栗の月や枝もさきさきものつゆに
まきのさきさき枝もさきさきさきさき

麦林
具角

嵐雪

来山

秋平五

十日集

親世殿十日の菊をさきさきさき
其角

残葉

はる葉は十日の菊のさきさきさき
来山

牛祭

角をさきさきさきさきさきさき
蕪村

牛市

牛市さきさきさきさきさきさき
芭蕉

後の月

温る月ゆりの枝をさきさきさき
佑徳

さきさきさきさきさきさきさき
其角

枝をさきさきさきさきさきさき
其角

後の月上のさまのふあつ那 其角
 ちあふいれあきりきり月 日
 ちくく子を千しよさくち後の月
 田のあふとちさきしあつじ後の月 希月
 ちちよきさち紙も最後の月
 菊丸の孫の終きむしらの月
 ちつれて此のじりちや後の月 燕村
 山葉あふ木のるんせたり後の月
 十月のちをささくれ後の月
 春人よはあふさこのちらにを

秋四

十三夜

青くさぬくちや月の十三夜 素堂
 秋よちりあきりしり十三夜 沾徳
 ちつととむさあけの猿無十三夜 其角
 娘しちやのちて十三夜
 素もはあふえ改の十三夜
 ちも山もねさくち十三夜 麦林
 ちちのちあふち十三夜
 ちちちちちち十三夜 其角
 ちちちちちち十三夜 素堂

二夜月

不之筑波二夜の月を一あつる

菜

菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)
 菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)
 菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)
 菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)
 菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)
 菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)
 菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)
 菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)
 菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)
 菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)

芭蕉

菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)

菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)

菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)

菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)

菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)

菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)

菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)

菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)

菜の根のやうなるものをいうる者(芭蕉)

みらゝやをし後の類の白れちと
折入へつせふさき一も一も久
春のさゝか杖うまきれち節つとも
斬つておのれいさぬささきの魚
さゝか杖さきり膝まで折入後具四
ちを折る芭蕉さきもさきのつ
とちさきつり又さきもさき一人や後
まろさきさきさきさきさきさき
かきさきさきさきさきさきさき
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、

嵐雪

秋四十九

春のさきさきさきさきさきさき
つらさきさきさきさきさきさき
陰流よのさきさきさきさきさき
除けさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
村のさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
、
、
、
、
、
、
、
、
、
、

来山

蕪村

小兼

とせ強も積るるさくの後あうま
日照る一伏見の山さくはらり

来山
蕪村

兼作

さく仰り海をさくくのぬこ那
那と人のまき海に雲を兼はらり

沾徳

兼畑

海をくれば穂のさきまよ兼さくけ

蕪村

兼和兼

さくおさくくの隣り歌く朝あつる

沾徳

紅葉焚

火焚くもつやさきふり酒の畑

麦林

紅葉

酒さくのさき海さくくをさくさくま

言水

鼻紙のさくれぬさふやそさうお
月のめえぬさづかをさくく可松舟

其角

秋
五十

むく粒在のまをさくく句の那

山那の海さくくまをさくくさくく那

さくさくく朝那の松さくくそれさく

さく後さくくさくくさくくさくく山

まつくぬさくくさくくさくく下那兼

山ぬさくくさくくさくくさくくさく

さくさくくさくくさくくさくく酒のさく

月ひさくさくくさくくさくくさくく那

さくさくく月もさくくさくくさくく那

さくさくくさくくさくくさくくさくく那

嵐雪

梅紅葉
葛
葛紅葉
蘿錦

梅るりー 焚焼とる目をたふらぬ
うしてとるる處に寺の
しるるるるるるるるるるるる
ふつら田ふるるるるるるるるる
嫁入のささくもささくもささくも
ちりれもこたの情中し梅るるる
まのほくもるるるるるるるるる
大吼てまふ人かー 若るるるる
かや書書の隣しらるるるるるる
おまの合書は秋のうらるるる

嵐雪
蕪村
希因
嵐雪
其角
言水
芭蕉
其角

一秋一

銀杏

菜萁
柿

後子の寺まのりーむ銀杏るる
あー代の供奉の扇や雲浪杏
ふ菜萁のかさーやこささささ
初漱かり柿の濃さを思ひりり
華屋の柿のまかり海やさささ
山形柿喰とやーは角赤し
後ふ柿や一葉盡く消ゆるる朝の霧
清閑や一葉柿とつれ我くー
おーるるるるるるるるるるる
りよかきー 里ま柿の梢よと吹笑

蕪村
其角
嵐雪
其角
来山
其角
嵐雪
言水

小練柿
木渋
ほじ柿
樞
柚
梨子
推
栗

本孫柿 暖味を伴世を知らぬ
 後よま 柿 橘 橘 橘 橘 橘
 随長の子は隣をばるし柿
 樞の売し柿は山の木の葉つよ
 子 麓の柚の葉をばるし白ひ柿
 くらげの葉をばるし男が柿
 推拾ふ 横河の児の柿
 同来し柿 根つる 里の本をばるし
 生栗をばるし 柿はるし 山の葉
 いこつる柿はるし 柿の葉はるし

来山
其角
沾徳
嵐雪
其角
沾徳
蕪村
其角

南 南 南
天 天 天

暮 暮

栗葉の玄葉はるし 柿葉はるし
 圓守の心柿はるし 栗はるし
 栗柿はるし 柿はるし 柿はるし
 冬柿はるし 栗の葉はるし 柿はるし
 山柿はるし 柿はるし 柿はるし
 南天の葉はるし 柿はるし 柿はるし
 なんて柿はるし 柿はるし 柿はるし
 うんた柿はるし 柿はるし 柿はるし
 南天の葉はるし 柿はるし 柿はるし
 柿はるし 柿はるし 柿はるし

蕪村
沾徳
嵐雪
素堂
其角

梅 疎

折々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

蕪村

乳母科

梅のこぼれ折々々々々々々々々々々々々々々

芭蕉

裏拾

うらぶれやうらぶれやうらぶれやうらぶれ

其角

世 穂

うらぶれやうらぶれやうらぶれやうらぶれ

其角

我 香

山降よんかきみも我本香

言水

茸

冷泉の涿敷よ盛きる茸くいな

其角

秋 五三

松 茸

きののききききききききききききき

素堂

十唱其表

二 斑ナリ 麿

茸

其角

櫻 茸

ゆき雪のふりふりふりふりふりふり

沾徳

茸 狩

きりぎりすやえけぬえのきりぎりす

素堂

北山や清雪のしらけの肩はくらく

其角

茸うらや山のしらけに鹿角病

ささぎうらや鼻のしらけにうらや

茸うらや改を筆のささぎ月

蕪村

菌 松露

行く行くして都の土や、木のふゆ

其角

神の香や、此のへは、まのあ

素堂

萩茶の休、くま、おき、を、た、れ、ぬ

蕪村

新豆腐

茶の香、くま、おき、を、た、れ、ぬ

其角

新酒

足、り、く、ま、おき、を、た、れ、ぬ

我、り、く、ま、おき、を、た、れ、ぬ

嵐聖

鬼、貫、や、新、酒、の、中、れ、お、き、を、た、れ、ぬ

蕪村

秋寒

く、ま、おき、を、た、れ、ぬ

沾徳

露時雨

神、の、香、や、此、の、へ、は、ま、の、あ

嵐雪

秋五曲

夜寒

く、ま、おき、を、た、れ、ぬ

其角

振、り、く、ま、おき、を、た、れ、ぬ

蕪村

聲、の、響、き、を、た、れ、ぬ

く、ま、おき、を、た、れ、ぬ

く、ま、おき、を、た、れ、ぬ

く、ま、おき、を、た、れ、ぬ

来山

く、ま、おき、を、た、れ、ぬ

沾徳

く、ま、おき、を、た、れ、ぬ

来山

く、ま、おき、を、た、れ、ぬ

蕪村

く、ま、おき、を、た、れ、ぬ

長衣

秋暮

かきざり 馬のさうりうの言 芭蕉
 さらし向け我も淋しき旅のくれ
 此道やしり人さしはたこのくれ
 棒中折るる物きり秋の言 言水
 青海やし海さるうて秋のくれ 其角
 まい山の不二まきやらこの言
 いらこのくれ旅又のさうりうて時を
 ともほくのけりきりひや秋の言
 是約の辰。ともやし旅のくれ
 身を絶てし指の横や秋のくれ 希因

秋五十五

ささらさうりしりさやし秋のくれ 嵐雪
 めいさうし丸我面くらん秋の言
 凍て起て又寝てるさし秋のくれ
 いらこの言るる山寺のうひのせき
 をみ、さぬ人持さうり旅の言 麦林
 九年おひるも腐し守旅のくれ
 好のくま枝垣の蓋もぬけてし
 淋しきよ又旅さるるうら秋の言 蕪村
 ちとらんさうりさるる旅の言
 門を去れ我もしり人旅のくれ

いぢりく白くは時をきく秋の書

燕村

又母のこゝろのしむり秋のくれ

去来よりと入海はそ秋の書

妹の故郷へふるまはるる秋の書

いごと可言の池をり沖こし

妹ふくと隣をいそとる人と

芭蕉

鬚風を吹く言始秋の書

丁麻虫とともりいそてくれきり書

其角

魁のんは所い終のふれえいれ

くもの秋有職の人の書と守

燕村

暮秋

行秋

旅くははの初とやくれの秋

いそとをいそとるもぬ書の秋

初とるに初とるのいそとるの秋

芭蕉

申く妹の指をよんで信ひとる

麦林

指くいととて本と信うけし秋

いそとるに初とるのいそとるの秋

け 妹やひととまよとるて書書は

希因

九月盡

又く月や大くは時て九月を

其角

妹ぬおを風方のいれ初とるを

いそとるに初とるのいそとるの秋

年子子... 明日... 九十日 来山

佛語十家類題集秋之部終

秋五十七



